

## 「国連防災世界会議 ジュニアカンファレンス」 参加者による発表内容

### 1班 外国で災害が起こったら、海外の人のためにできること

#### ●募金

→私達が震災の時にいろいろな物が不足したように、海外でも物が不足すると思う。衣服や食料など、生活に必要なものに替えられるお金が必要。

#### ●応援メッセージ・ビデオレター・折り鶴

→実際に届いたものだが、「印象深かった」「嬉しかった」という感想が多かった。また、折り鶴は日本の文化であり、日本人が災害を忘れていないと印象づけることができ、海外と繋がることもできる。

#### ●支援物資を送る

→震災の時に、水や保存のきく食べ物が送られてきてとても嬉しく感じた。海外の人も同じ感情を持つと思う。

### 2班 海外の人にも伝えたい、わたしたちの防災対策

#### ●予測する

→震災の時には地域のハザードマップや避難訓練が役立った一方、訓練は多様な状況で真剣に行くべきという意見もあった。どんな状況でもいざという時に落ち着いて行動できるよう、日頃から訓練や心がけをしていくことが必要。

#### ●日頃から災害への準備を行う

→具体例としては、防災グッズや食料の準備など。また、防災訓練などは、一つ目でもあげられたとおり、予測して行動することにも繋がる。

#### ●日頃から近所付き合いを大事にする

→震災が起きた時に、町内会の人と情報交換し、新しい情報を得られるようにする。

### 3班 もしまた災害が起こったら、わたしたちにできること

#### ●炊き出しなど、地域ごとの活動に積極的に参加する

→震災時、水や食料を供給することは、自分にとっても他人にとっても必要。他人を助けることで、自分のことだけでなく他人のことを考えられるようになる。

#### ●周りの人とコミュニケーションをとる

→同じ経験をした人と、自分が大変だったこと、嬉しかったこと、心配だったことを話すことで、心の中にある不安を少しでもやわらげることができる。

#### ●声をあげる

→「何か私にできることはありませんか」ではなく、「何が私にできますか」という声をあげることが大切。声をあげることによって活気づく。また、声をあげないと、助けられるだけになって後ろめたさを感じるが、声をあげることによって助ける側に回ることができ、精神的に楽になる。

### 4班 外国で災害が起こったら、海外の人のためにできること

#### ●その災害について正しい理解を深める

→震災の時は、原発の風評被害やデマによる混乱があった。インターネット上では、正しい情報も正しくない情報も簡単に入手できる。情報を取捨選択し、間違った理解をしないことが大事。

#### ●被災地にメッセージを送る

→今回の震災でメッセージをもらい、「一人じゃない」と安心できた。また、一時的に送るのではなく、定期的に送れば、その国と繋がっているという気持ちになれる。

#### ●実際に役に立つ支援物資を送る

→震災の時、実際に支援物資が送られてきて、とても役に立った。また、支援物資は送られてきてすぐに使うことができる。募金活動は、その国にお金が送られてきてても、そのお金をすぐに物に替えることは難しいので、現地とのコンタクトをとって、本当に必要なものを送ることができるが一番よい。

**5班** 海外の人にも伝えたい、わたしたちの防災対策

- 地域の人どうし、友人どうしなどの横の繋がりを深める  
→全てをメディアに頼らなくても情報の共有ができる。また、孤独感がなくなり、安心できる。
- 食料・飲料水の確保  
→震災の時に食料や水に困ったので、食料と飲料水の確保は必要。
- 情報の共有  
→災害用伝言ダイヤルの簡易化や、横の繋がりを意識することによって、情報を共有することが大切。

**6班** もしまた災害が起こったら、わたしたちにできること

- 心に余裕を持つ  
→災害に備えられる。実際に災害が起こった時に、臨機応変に対応し、自信を持って周りに目を向け、冷静に状況を判断することができる。
- 物と情報を共有する  
→震災の時、自分の家がオール電化だったので、近所の人にお風呂を貸したら喜んでくれた。また、近所の人に食料が売っているお店を教えてもらったのが嬉しかった。その時の経験から、物と情報を共有するのは大事だと思う。
- 外に目を向ける  
→「自分の家だけで物事を済ませ、周りにほとんど目がいかなかった」という意見があった。自分の小学校が避難所で、多くの人々が避難していたことも知らなかった。知っていたら、ボランティア活動や炊き出しなど、自分にもできることがあったかもしれない。自分から情報を集めて行動すれば、地域に貢献でき、外国人の方にも安心してもらえる環境が整えられる。

**7班** 外国で災害が起こったら、海外の人のためにできること

●日本の震災の経験を活かし、災害への対応策を伝える

→世界には発展途上国も少なからずあり、資金の面でも対策が不十分になっていると思う。先進国の日本として、発展途上国の防災意識を高めるためにも、対応策を伝えていくことが大事。対応策を伝えることで、ケガ人などの被災者を減らすことができる。

●災害が起きた国に応援のメッセージを送る

→震災の時に不安や心細さがあったが、九州や海外の方からのメッセージを読んで、心が温まり元気をもらった。わたしたちがもらったメッセージの分、災害のあった国の方々に、恩返しとしてメッセージを送ることは有効。

●災害の被害を受けた国の製品を買う

→災害による経済被害は年平均 13 兆円である。このような莫大な被害は、各国からの募金や支援だけでは克服することはできない。被害を受けた国の製品や食品を買うことを心がけ、世界中の人々が実行すれば、1人あたりの量は少なくとも、継続的な経済支援になる。